

(第3種郵便物認可)

# FRB 米成長率を上方修正

## 10年見通し 完全復活「5〜6年後」

【ワシントン共同】米連邦準備制度理事会（FRB）が24日公表した経済見通しは、2010年の実質国内総生産（GDP）成長率を前年比2.5〜3.5%増と予測、6月の前回見通し（2.1〜3.3%増）を上方修正した。10年末の失業率は9.3〜9.7%と前回予想（9.5〜9.8%）から改善した。FRBは全般的に楽観的な見通しを示す一方で、個人や企業を取り巻く環境の不透明さや、労働市場も弱い状態が続くため「景気回復のペースは抑制される」と明記。米経済や雇用情勢がFRBの目標とする水準に完全に戻るには「約5〜6年が必要」との見方で大筋一致した。

09年は下半期の成長率が予想を上回ったため0.4〜0.1%減と修正。10年も「財政、金融両面での景気刺激策が総需要を支える」と指摘した。ただ11年は3.4〜4.5%増とやや下方修正。景気対策終了後の成長持続に懸念を示した。

失業率は11年末が8.2〜8.6%、12年末が6.8〜7.5%とし、長期にわたり高止まりすると予想。12年までのインフレ率は、FRBが望ましいと考える1.7〜2.0%を下回るとの見通しを示した。

FRBは年4回経済会（FOMC）で議論見通しを公表しておいた。



「土佐あかうし」の味をPRした試食会  
（高知市）

「土佐あかうし」ブランド

高岡郡日高村の「ひだか和紙」（鎮西まり子社長）がこのほど、1平方メートル当たり2枚という極薄の典具帖紙（てんくしょうし）の開発に成功した。県立紙産業技術センターが「天然繊維で作られた紙では恐らく世界一」とみる薄さ。国立公文書館（東京都）からの要望に応え、透明感のある美しい和紙が生まれた。

## 1平方メートル当たり2枚 透明感ある美しさ

（浅田美由紀）

同社は機械で極薄の典具帖紙をすく技術を持つ。既存の製品でも1平方メートル3.5枚と、トップレベル。

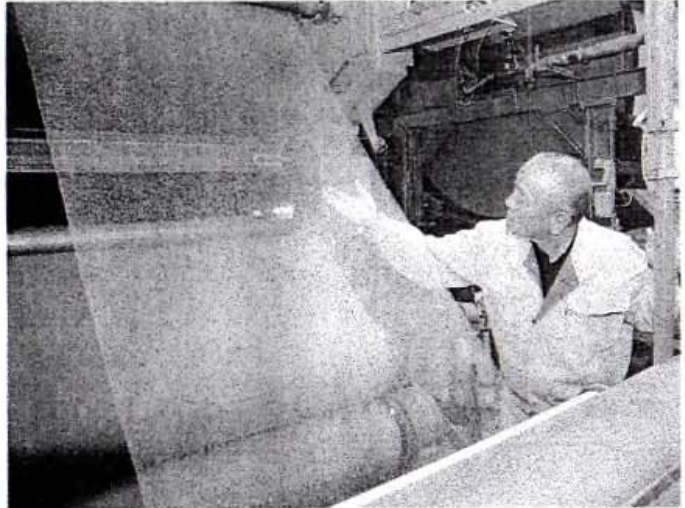
丈夫で透ける典具帖紙は、古美術品や文化財の修復に重宝される。同社は独自に開発した塩素を使わない典具帖紙の販路拡大へ、今年6月に岡山県で開かれた文化財保存修復学会に出展。その薄さが同館の修復専門員を驚かせ、試験的な採用につながった。

## 日高村の「ひだか和紙」

# 世界一薄い和紙開発

文書類は、薄い和紙でサンドイッチ状に挟み修復する。「薄ければ薄いほどいい」と要望を受けた同社は、限

## 文書修復などに利用へ



界まで薄い紙の開発に械を動かす速さなど、微妙な調整が不可欠。原料は楮（こうぞ）蓄積したデータを基に100%。紙の厚さに応じ、試験錯誤を繰り返して原料や水の配合、機安定的に2枚紙をすく

ことに成功した。2枚紙で修復した文書は、和紙で挟んでいるのが分からないほどの出来栄え。同館の有友至修復係長も「薄く、繊維が短く、紙がしっかりしている」と高く評価。早速、修復業務に使用しているという。

同館は韓国や中国、台湾などに修復の技術指導をする協力も行っている。有友係長は「これらの国は薄紙をのどから手が出るほど欲しがっている。私たちも高い技術を持った会社を応援したい」と話す。

同社の鎮西芳男さんは「修復の需要はますます広がると思う。加工方法など取引先の要望に応えていきたい」と話している。

1平方メートル2枚の薄さの典具帖紙（日高村のひだか和紙）